

680
.K2



唐長
以來

新刀辨疑

六

五

新刀辨疑卷之六

東山道

○江州住人佐々木八道源一峯

一峯江州の住人として後江戸へ来る初代ハ善四郎入道と云地録
細小鑑白者て烈々此出来多し二代目ハ父より里落き出来多し此録ハ二
代目也猶久日或人善四郎ハ二代と云是非多し初代ハ善四郎
郎ハ中ハ古し初代ハ善四郎と疑ふ者多し

九峯

○關藤原十二國

吉國ハ其ノ集一書ヨモ漏ラズ又ホシノ石物ナリ

養州。上有知之住兼辰作

裏 慶長拾叁年八月廿日

○三品越前守源定道

ウラ 天和三癸亥年二月五日

定道ハ其集國不ム出書ニ河原兼則ク来キ其年小住スヨリ方モ

角峰ナリマシリ

河原

近江守藤原清宣

傷中 古屋重ク父マシ上キ也 寛永三年二月日

表

中直忍ニテ上手ニハシ

裏

濃州 住壽命

享

○保十八癸丑年二月朔午作之

九公子

兼元五代目兼直作

出来強ク上手也

豊後守藤原助宗

角峰小肉中直忍

嶋田十郎豊後播磨大掾共三同人ト見ヘリ

助宗ハ後前國一ノ子助宗ノ後也ニ代目ハ駿河國藤原枝の逢福某ト云
不子住す嫡子ハ代目助宗ト切明男某四別家トてある家不子云云
長比 右命ハ依テ落シテ有代州の助宗も駿河ナリ後ヤシクハ
豊後守何代目ト云フ未詳ナリナリ比類細小終自為テ更ニ更シ

上手也治田小十郎因人多る金銀物也中皇及大攝擧等後座大攝六
 之御勘之赤仁左之御後書後物信則ふ不之の銀子者又御物末原
 子も信守誠前福井出城大攝時世家と切之り也但世を御ハさ保比あり

信列 諏訪住藤原信舎

角山子 柘目細直又上手也

○ 信列住長治造

信舎長治有く亦不有及百系に漏り信舎ハ地鉄細小銀丸を
 上手也長治も大攝の作也藤原富田のぬきりの也
 一書小長治ハ大攝以の治也と云

小肉アリ又長二尺五寸柘目肌アリテ見事也

○ 奥州 國分若林住山城大攝藤原國包

源次郎國包

大分 仙臺住國包

國包ハ奥州仙臺國分若林住人之山城入道用惠藤原山城大攝藤原
 出羽大攝藤原寛永以山城大攝藤原源次郎も新代者て銀もつく切
 也九曜紋切し 國包ハ作皇孫の柘目也又つるより青く小籠肌の百小頭
 是大和國保昌子郎也見ると如き物也新刀銀物銀不治工敷亦有と

陸奥山美平以國包及小笠原等家の之部ハ移ルルもの也
 一書小大和國多市の住保岩穴宗々末在永中興阿仙等一あり止
 城乃道法名用直と号し山城守孫原國包と切守九段の改を
 臨み扶持人と家代ノ國包と切二代目ハ永部誠中と云後之ノ也四
 代目より孫原と切六代目櫻十郎と称すと云按ハ永永中興阿一
 あり一者の四代の孫又九曜段改臨みし家代し永永宗と記せしハ
 其永の孫りた有ハ用直即九曜切と云國包より和物よりあり
 一もは國包永とし出羽大孫源次郎ハ何代と云る未詳あり代
 南平

○奥州加仙其妻任安倫

女方カレ内ケリ

一書に安倫元祖ハ駿物持田世宗子子傳助也永永興州仙妻一也

一代倫祐二代目安倫より相州傳を孫ハ四代目安倫ハ太古殿傳のお
 繼打し若也余部仲と傳と稱す五代目安倫ハ江戸大和也安倫ハ人也此也
 南平

○奥州住兼定

南平

奥州住兼定

兼定ハ流州關和永也兼定ハ六代の孫也江大孫兼定奥州會津ノ下
 又居不也花田と云孫左衛門と稱す二代目後ハ名江と云切里も孫
 左衛門と云入道兼定と切三代目ハ近江と云切古川と云と号す保永
 二子九孫也又云は兼定ハ六代の先祖ハ皆名盛氏の所として孫二百と云給

肉アリ九等ニハアラヌ

陸奥大掾三善長道

友四良

ウラニ〇寛文十^庚戌年二月日

陸奥會津任道長

一書長道元祖八安孫國彦治任國行之子奥州會津一ツリ也國と

孫才長國之子長道系治年中上系陸奥大掾不基名京以江戸小住任す

九山子

東奥磐城任貞平

於本貞則之子家ニニ長一尺八寸一分廣厚在少錢自有名家老後ノ作如シ

貞資東奥磐城任貞資と切是又名別々一門基ニし貞平ハ名ハ以テ

角山子

奥列盛岡任国義

表ハ幡大菩薩重鋌彫物々々ナリ

元禄四年二月日

角山子

新藤源義国

奥刀切盛岡任新藤源義正作

同 鉦尔
ヲモテ 新藤源義正
ウラ 奥刀切盛岡任

ト有此サノミ
ウラ 寛保四^甲子年二月日
上ホニアラヌ

國義の作地録細くして小録白濁く強き出来て申免文京初代道
江古久道不似なり上多あり

一書小奥州奉國の國系之祖ハ由來國々代任行國事系平四代
吉政世子新羅平之國行國之代目ハ新羅以爲之國系新羅の
家人と家任國々代任國々代任切若無人也不之録以之此
國系ハ一家也按小國系系と切又任國或ハ新羅源義國と切寛保中
の新羅源義正其時任國々代任を盡し義正ハ義國國系ハ一家ハ

羽州米澤住魚弘作

羽州米澤住源政光

政光系弘也其系ハ有集に漏り地録ぜんぐると小録津きて
かしれきて又ゆる免文の採圖の事とてつり上多あり

九早

取國霞城藤原正秀造之

ウラ○真拾五牧甲伏鍛

水心子正秀

ウラ○安○永九年二月日

正秀ハ元武家浪人なり初羽州赤湯に任給末ニ高松原定英と協
後家上山形ハ鶴住ハ英國と切安永三年 秋元家の信ハ兼川部
後ハ郎正秀と改め心子と号して世の上あり物よと成る者也

北陸道

小内アリ

佐州住康氏

康氏は信濃國の御治多集ふ所なり關原文上よりあるは之を以て之を

角半

賀州住藤原家平

大にタレ及強シ

角半

加州金澤住高平

廣直及砂流

小内アリ

加州金澤住藤原兼若

ウラ

享保貳拾年二月十日

大にタレ強シ

小内アリ

加州住隆羅尼橋勝國

裏千秋萬歳

勝國ハ蘇峰々末將監と号セ一若伊豫大掾也切は銘ハハ代目文七
代目とも云り和戸若之郎と号し初代のみきハ此ハ也也

用ム子

鍛南蠻鐵鈕之

明曆三年二月日

表銘新三郎左不出ル

新兵衛尉作

一書汝の國福井任新海助宗八番海沿一々の宗宗事也強新海
後世宗て心付行何あ由那へ後り後強あつ以福と福小寛永中
少海と標と及事と切崎子國法不世崎孫新と國法多病以宗宗孫の
吉たらの國宗宗と強國法八別宗す寛永十二年より宗一と宗と切新海
物十九の宗宗と強國法と標地宗と切崎ふけの國法八番の宗と孫宗一

山城守藤原國清

康繼於越前作之

山城守藤原國清康繼於越前作之身人たふらの新治也地廣細
と弱ふとふふハあ〜ハ法外播磨中と藤原重と伊勢守藤原國清
上総守藤原宗道石見守藤原宗行仍四人たふ誠者の治ふ也平作
未ふつふひ〜とあす

少陰道

因列任人無先作

幡國住藤原兼光

一書之國信國系先ハ多取城下秘治町不任蘭元ノ末系惣十郎
為先也元和申美作國津山より國府島原ノ末後二代目ハ兼次
二代目兼次ノ弟別家トシテ家外又ニ之後ト稱する兼次者
元祖孫九郎ト兼次ハ作別津山より來ると云揚不之後ハ家ハ次
男家トシテ之祖津山より來りし時一回不來をしりのおらん代
家暫トシテ兼次ト初初在任の時ハ兼次ト初ト云免つた也

信濃大掾藤原忠國

丁子龜文隆し 二代目十九死

一書に忠國ハ系堀川國廣ノ一人生れち孫國隆ノ弟子刻國忠國
ト改國府島原縣所ノ末後右守の家人と奉因信書ト初二代目ハ
代濃大掾後ハ七ノ切山ハ島大美ト稱す正徳元年お録の信使

又孫不長ノ力を報字保五年十一日死壽七十歳嫡子忠國ハ
忠國也按又刻國カ國ノ改トシテ不常別人の説是おらん因幡守を
切トモ未ぶ又申國廣國隆刻國生チ信濃大掾字保五年七十歳に
してハ寛弘の代信濃大掾ト切若ク在任事也ト考知トシ
寛延二年の信濃大掾トシテ智元親の女ト上承メハ何ノト付
の忠國ハ三代目ト云ふトシ四代目ト云ふ人又刻國ノ子孫傳
國不在ト云聞す系刻國信濃大掾ト云ハトシテ及國府島原ノ
信ノ事

山陽道

播磨國鈴木五郎右衛門尉宗榮

隆ノ荒録多シ

大和事 小肉アリ

右五良宗栄

又長二尺一寸五分

廣直又鑑堂也

宗栄ハ播磨住新末五郎者出づ尉又藤原者作とも五郎也切也地
鎮細不能之由軍中流小籠多く自至てゆく大津大元文彦喜安河邊
も花やらよして及ふ如物也重厚く之を輩も造りて持備は極中心
の先走り如く通し中心も位多し其也隨ハ大和邊の夜の如也仕立
つあて上ノ事ナリ

小肉アリ

大和太掾藤原氏繁

ウラ 享保十九年八月一日

四代目ナルベシ

小肉

播列干柄山麓藤原氏繁精鍛作

九ム子

五代目ナルベシ

匿陽國衙壯金重

小肉アリ

備前住八重貞作

平造リ

ウラ 元禄四年八月一日

備前住貞重ハ大元文子て薩州正房又似ナリ上ノ也

小肉アリ

美作國住人面目宗

兼先考ノ一
宗上ノ事ナリ

隠ミダレ強シ

角子

横山上野大掾藤原祐定作

「ウラ 備列長船住人

横山祐定の初代白漆く漆き物多しと云也

カクム子

前國長船住横山源八良壽次

ウラ 安永 六丁酉歲二月吉日

未次、作地鉄細ふ直又よして七き奉射。獲理の少し弱き物よて
上中色はあふく備前の治上よ附大掾の跡に結言、漆立路河内寄
り結言、漆立路七き奉射、結言、大守能政朝臣の命よつて及七言
備前壽光と改むと云按、河内寄、治の漆、漆立の壽次と銘、横山源
八良のり奉立しよと云、作を免く、小甲乙漆し、と云、壽次は佐あん

九丁年

東多門兵衛正成作之

佐前宮山住系多、の多、正成、の為集、又、兼、し、地鉄細、又、白漆、く、潤、ひ、者、て
備前亮、又、又、下、飛、又、玉、又、多、し、切、物、亦、之、し、後、集、言、に、正、成、も、同、人、兼、一
し、と、云、り、按、不、列、人、と、云、て、二、代、目、多、し、云、
一、書、の、妻、木、正、成、と、銘、せ、し、と、云、按、又、寛、永、より、延、享、の、迄、銘、し、と、云、り

東多門兵衛正盛

正盛、の、正、成、の、子、正、成、の、孫、と、云、代、目、多、し、云、
の、作、り、正、成、より、正、成、又、兼、り、方、也、今、國、山、下、の、正、成、と、銘、す、物、は、未
成、し、亦、ち、繼、及、正、成、の、命、と、云、を、銘、也、と、云、り、正、成、の、子、

備前國ハ鍛冶相應の風素し一宗院永延以より友成以下の上より多し是世の知らず也此以より以中又素て正以より而てハ用合能物多し此は其の凡其長以より其あふよきてハ社定数千人あふるをあらす造し物水才佩なき物多し其良物也撰之し其銀多集今の消録より見ゆ

備前國 備前河野理兵衛尉為家
小刀長月市 藏 國重

其長二尺三寸四分半ハ廉價銀錢多ク白深ニ

寛永十九年十一月日於松山是作

為素ハ地鉄細小鉄白深し廉直又其改のわし物ハ其の物也其久の練ハ地鉄と成とく其地と出より其は代大白も亦其見ゆ其物方也撰て佩刀とすべし

小肉
國水田任大与美 國重

小肉アリ
國水田任大又太郎橋國重

大危文ハ其終者テ上子也

小肉アリ
國水田任大乃ハ國重

角峯
國水田任大乃理兵衛尉為家

其長二尺四寸二分

三神兵衛尉國重

備中國水田家系を見ず大月たき園松山城下西田村に住す生子三郎重子と云ふ即ち男右衛門國光也大月興五郎國重ハ即ち西田之代目也此國重と云ふ切しも其以外に換細よやれ然小振多く自れて保し西強く此鐵園ハ有て相之重の如く降里して又子也又此れつ面ふ有て則重の如きも有地録之有りし故肌顯夫ハあつた出来の悪きハ顯る也帽子ハあふ出をりし也凡く志を重しと云ふと云ふ左き園國重ハ備中國産原の住人ハ其國のえ担大月と云ふ即ち祖父也備中國産原住國重と云ふは此作地録細小強く引張荒振小振自保し慶長より古し二代目之為と云

父と同じく其子に傳へり亦也此國の中より此二人ハ峯以て是録ふし一書に備中國青江住為次と云ふ其國英斐那皆都下住し其松山より西に河野と云ふ即ち為次と稱す二代目ハ河野と云ふ即ち國重大月と云ふ之代目同國氏月那彦原住左衛門尉國重ハ之以後の住也四代目ハ皆那彦大月と云ふ即ち國重と云ふ也五代目大月と云ふ即ち山城右衛門源國重と云ふ也六代目ハ即ち園國重古保四年二十四年之水田の平田村に住古文也其の國重と云ふと云ふ按ふ後集不出る系圖ハ大月と云ふ是也四代目ハ天正中六代目ハ其保の事古留本ハ一ハ僅二代より百余年の事数あり是國重と云ふと云ふを合し然し其青江の為次と云ふと云ふと云ふ其あると云ふしつら其の以の為家國重名未別家也と云ふ之つを取てハ二代目と云ふ大月國重の祖と云ふつら又云ふ天正に拾魚の標ハ其系長として考ふ其初ハ其系長ハ國重と云

せしるも方とて了る世帯部亦以て國重に銘せしむる也

備中水田任國重作

又長二尺一寸七分 廣五又銘多し

於備後福山造之

尾道五乃録感行

慶長比ヨリ古ク見ニ

備後國ハ慶長ハありハ一ノ系の事尾道頼多し又住し頼之系尾道之
系と世又知りりの多し其阿保五河保力河保以下数人可也又の

上手也辰房一彰ハ討文上ノ是近世の由事修し又及津田の度
うつ事由宗助高下りて上手ノ多き也

肥後守藤原輝廣

備後守藤原輝廣作

輝廣ハ尾張國任人肥後守藤原輝廣と切福治家の伝と成て安藝國
廣治ノ初任す備後守輝廣の初代也此作地鉄ノ至として明書一
家の如く録自ハのりて信り多しと雖也輝廣も上手なれ大能也
ハ松原の上ノ也或云輝廣の書つて人と云ては藤原物一なりしと

新加辨疑 卷六 水滸書藏

一書又あるに國彦為任伊賀守孫原輝房同攝慶安探原と切も有
又孝深の精度ハ孫四郎孫原と切肥後守子孫子て代し輝房と
切とを指し絶はるハ慶長代の人とて付するにハ之を代目本へし伊
賀守と切ハ何代目と云ふ也未だ詳あり代

小肉アリ

新刀初住源則房作

細直又長直守云々

刀身ハ子孫傳る事不詳なる如く其鉄細く少能く自い深し信有る程
古輝房の似て至る事多しと云ふあり

小肉

新刀初住經慶

細慶の作則房の似し刀ハ亦あり其事云々人外慶幸ハ後福又見たり

角等小肉

長州住井刑部兼口一王方清作

又長一尺八寸五分 中龜文又隆し上あり也

寛文七年八月良辰

新刀の二目一
玉井を稱す者
多し

佐。渡守國富元喜作

一書又元喜ハ奥州奉國江都出雲長門等ふる居を移し云

小肉

長州住為子代家次

南海道

南紀重國造之

小皮アリ

一糸

於南紀重國造之

細直五ツヨシ

於紀高文珠重國造之

小肉

二代目金助也

寛文七年

八月日

九糸

長二尺四寸五分 直五也

南紀陽文珠重國造之

重國ハ初代於重國造之と切地録云々
いふも詔自詔之信有皇文也
後比して傳はり能叶一里といふ
くも有りて中心の結能き
あり重國ハ一肉有二代目金助也
一書よわおも標色永末
弟の島は重國有人
珠と唱ふも象の籠つり

又紀州明志位重國造之
又紀州明志位重國造之
又紀州明志位重國造之

手國居駿河國後於紀州の光山作之相掃檜都築之吉丈氏建持
之又駿州佐の三郎之謀守國元和の事号者大和國匠人駿州向
後任紀州此刀元和八女曆九月吉日可有秘藏信管別為入修守國造
之有紀州の事於駿河造之寛永事号者紀州和山佐九郎守國守
保の手國之又駿州の事任九郎守國守保事号者紀州守り美徳之
性で隠しふらん

紀州石堂一家ニテ上手ナリクスリヤキナリ

角峯小肉アリ
長二尺五寸大龜文

紀州住天狗作

ウウウ。鈴木三郎五郎是兩持者也

山本平馬尉助政

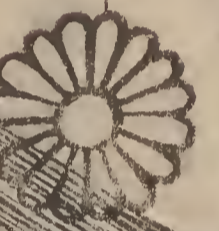
助政ハ一書不録木大和守とも切と云予國急水す小裁系ハ反て
決州ハ記す按又初ハ平る深大和守と云外也一ふらん

臨川住相摸守源國維作

國維ハ後集の禪是之とつてし上も也保石公系あふり有
初大坂ニテ後今治へ下リレナルベシ
小肉アリ

与列大湯住廣宣

小内



○山城守源国道

平安城住同人ニテ豫州吉野ノ人ナリ

西海道

角小内

○筑前住

○辰仲

辰仲ハ筑前ノ下坂一帯ヲ以テ居ル事其人共筑前ノ事ナリト云フ
ナリノ事又洛ノ事也又文以ノ作事ナリト云フ

信國光昌造

ウラ 安永○六ノ月八日

上ユナリ

角小内

○中津住藤原朝家作

角小内直双

○高田住藤原統行

角小内直双

○高田住藤原行長

角小内

○藤原豊改

新加

卷六

角メソトリ

藤原宣行

角面トリ

藤原正行

角岑

藤原國隆作

初代

肥前國忠吉

角岑

肥前國忠吉

小肉アリ

初代

初代

肥前國忠吉

小肉

肥前國住武藏大掾藤原忠廣

寛永六年八月吉日

角ム子

右同銘ニテ年号此ノ如シ

寛永八年二月吉日

新加

卷六

三

水音舎

角字十四

寛永五年八月吉日

又長二尺四寸九分中縵理ツヨシ

肥前國住武藏大掾藤原忠廣

肥前國住藤原忠廣

ウラ 寛永八年八月吉日

肥前國住近江大掾藤原忠廣

角字小肉細直又強之見事ナリ 二代目也

角字キリヤスリ

近江大掾藤原忠廣

二代目平作郎之代目新之代目也
ウヨクニテ
アコナナリ

肥前國陸奥守忠吉

角字

肥前國陸奥守忠吉

肥前國住陸奥守忠吉

角字

肥前國志吉

ウラ 慶長六年八月吉日

肥前國近江守忠吉

丸△子

五代目

丸△子

近江守忠吉

角△子

六代目

肥前志廣

肥前國近江大掾藤原忠吉

小肉

角△子

肥前國志吉

四代目今時ノ人也

肥前國新左衛門尉藤原志廣

ウラ 寛永十七年八月吉日

寛永九年戊辰大掾死去同廿年平仙任近江大掾
志廣母按小平仙寛永九年壬申年の旨
以此終セ一与多一し

忠吉ハ肥前國佐賀城下任慶長比々至數代連綿ノ乳産し元祖新左
衛門共長中平安城埋忠臣者重吉つ一人と承て忠吉と切後武藏大
掾ニ承て忠廣と改は作地鉄細又小髭多く白深し長髪ハ至極の不
と得て能くさまたるハ雲國の物又又速少髭の上立也寛文五の徳理又
ハ大又弟ト至を籠ハ埋忠の逃りてせのこ強ハ又一子一妹道白
の徳能位あり然ハ五字七字ハ字つらく又切て一掾あらず切後又
て丹心のは立解のの表と寫せり中心の先忠吉と切ハ丸く忠廣と切
ハ山形も青長ハ短ハいしまハ偶おとふる物也
一書又佐賀系圖ハ末之系の信宗近の末流達曆中末五系功つ掾
本之系寛元宗弘有以弘の築前國一ノ守中徳孫長十良的徳中紀
前徳又ハ弟ト重徳掾中末六ノ忠吉共長元系上系ト一埋忠宗吉
一人と系埋忠のつまを承て代ハ忠吉忠廣と切元和十年二月十八日

武藏大掾ニ受け承寛永九年八月十日若死時ハ六十六歳云々
元宗弘より武藏大掾忠廣と七代長之つら掾又埋忠宗吉又明
壽重吉と承つたり初ハ宗吉と承し後ハ重吉と改し又ハ重
吉と宗と改りハ又承し詳あらず

忠廣ハ武藏大掾の毒服の子平作郎と号し是ハ中家の二代目也父
武藏大掾寛永九年八月十日死す故ハ忠廣と改む寛永十八年壬辰大掾
と受け承え祿六壬申死時又ハ十歳は作地鉄細又中徳理細徳理の
上手也小髭多く白深し帽子能きまりて青江の如く又ゆゑ元
祖の如くふる物也子平作郎子隆興也祖父の越べき名人を生
位父子と号す

忠吉ハ平作郎の嫡子也初ハ身と云葉治三年陸奥大掾と云
す寛文二年守又替す貞享三年死す何ハ平作郎父不先立て死す故

忠廣と、改すは作公祖國法の名人まで地録の志母りみの強き子と祖
 又越より藤原公板津の事もあらず之の事方帽子仲て忠廣の事
 忠文又八犯若鑑治の傳也と不あらず此忠文と初代は廣の忠文と
 後鳥羽四代五代六代今の七代目忠吉とすよふて位は平少方とす
 去傍より初代の一人也保縁掾宗沖宗安廣則忠行正次重次國慶忠正
 忠則清次家長吉正忠重種廣等系圖の外叔人者

前國河内大掾藤原正廣

河内守藤原正廣

小内 中直又強し又長二尺五寸四分 堀忠則壽正廣ニ贈按スルニヤスリハ切鑑中心
 紐ノ掛ヨキヤウ又ノ廣キハ好
 コストアル十六忠吉同輩ニ
 川人トナリレナルベシ

河内大掾正廣嫡子武藏守藤原正永

「角小内 富士山星雁ヲヤキ入タリ 又長二尺二寸五分
 正廣の初代ハ元祖忠廣の裔 孫トテ藤原吉行の嫡子トテ傳治と稱す元祖

武藏大掾忠廣外孫とて河内大掾正廣の初代也寛永二己太守の
 命よて正廣と銘す同十八己河内大掾と文飲す上も無二代河内守
 三代傳中大掾正永四代河内大掾正廣又代河内守正廣正永正切
 六代今も嗣の正肥前國正廣と切代とすも位は平少方とす

羽守行廣

以阿蘭陀銀作

行廣ハ右正廣の弟少正正廣同輩の上手也對し忠文又も傳治とす

かゝるやうなる物も同様に長崎の所業の録方と云ふて録し
也。初ハ生羽大掾後ハちよと持す二代目も出羽と云ふハあまの里

播磨守藤原忠國



ヒタツラヌ 鉏ノ上ニ業ヲ切



以真之鍛作

十肉アリ

肥前住廣貞

斯ノ如クナルモアリ

廣貞ハ元祖忠吉ノ子子ニテ師々作之似て今カシ及セヨト云アリ
其國ハ右廣欠ノ子ニテ播磨大掾ニ交ルす此作地鉄細ノ小籠多ク

白ひ漆しり廣子も男とせしもの也二代目ハ播磨守と云ふ切三代目播磨大
掾と云ふ也少くも少くも里杜子と云ふ二代目也初代ノ中心有集ふ尺也

丹水氏藤原永央

保○三年八月吉日

廣直又ニシテツヨキ出来也

以南蠻瓢單鐵真鍛作之

刑國住遠江守藤原魚廣

一角擧

角ム子

遠江守藤原魚廣

以南蠻鉄真鍛作之

兩人ノ作也

ウラ

同住越中掾藤原吉住

新刀辨証

卷六

角峯

三二四

水鏡

肥前國住人吉家

伊豫孫宗次三似テアトリ

白クカクヨハキ出来也

肥前國住人廣則

小肉

「角峯」初代忠廣時代ナルベシ古ク見ユ

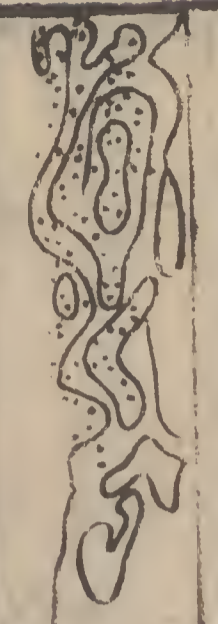
肥前國於唐津高田河内赤源行平

小肉アリ

「ウラ」○紀新大夫末

由河内赤源行平作

「ウラ」南變以鐵銀



吉後太郎次作 七十余歳

小肉

小肉アリ

土肥真了

初代也

刃長一尺三寸六分

大灣鏡多ク白深シ

小肉アリ作之趣ナルヘシ

土肥真了

ウラ 元禄十四年二月

今も此の如く二十九歳

真了、井上忠政の一人、肥前國赤松浦の赤松の家に生る。其の父、忠政の如く、赤松の家に生る。其の父、忠政の如く、赤松の家に生る。

新刀辨証

卷六

三二五

水鏡

の法立臨生に及ぶ所の如し帽子も能くすし大に威少し道にても方や
数代相續しては未だ中より今の生うハ四代目大六と云

一書又系越中より後子子正則中子正重中子伊左衛門延實ハ
年大坂一未て井上中後門人と成天和二年平戸一陽一あり
の初代也中子作し延路父も同じ京保五未四子ハ義と云按ふ
初代越中より後ハ慶長以後也正則正重中子伊左衛門延實中
の人とつ小村ハ僅の年数又四代を継ぎ半いりて者名知れん記
すふ正しき又似てゝあらず不取て情覺ふ備ふ又國人の云作

土肥真了

一書ハ初代小村より中子重中が一多て當時の生うハ

大六と稱ハ大但ハ

大小と云り

豊後國鬼鏡直行作之

ウラハ以南蠻鐵鍛之

一書小直行ハ豊後のさ由より肥前上松浦郡唐津一未後中太和
中と云凡そ鬼鏡とは其の種採る鬼の牙をやく故と云

九四等

薩列住藤原三清

其長二尺五寸二分厚直クブレ

一丸等

主水正三清

其長一尺八寸二分

○主水正三清

角等

長二尺一寸五分

○主水正三清

○主水正三清

正清、薩州住人宮原法右衛門のち、正清、覺ちまると改む享保五年七月十二日葵つ葉を^{たきつら}焼て銀元一切て主水正三清と切也此作地鉄細く青く厚く小孔有り、黒い茶葉細く銀多く白漆し本意大の孔地の中へより入るなり成りいふ名が、花やうさ、大坂生及御座

とも越ぐたりと疑ふ程ふ思ゆる也帽子大太の如く立伸て丸く志まきへも、稀也切種よてた緒あつめ違のこあり角む録よて峯の種も平のすり又同一中心の四方峯方共ふ面状か、取る部て種も丸めよて抄好すり、重し又地刃とも、孔立も同五丸田伊豆也正房、門人也

○住藤原正房

正房、薩州の住人父、美濃國冥丸田若狭守氏房薩州へ住りて、團つと稱す嫡子正房又伊豆とよと名給ハ薩州住正房或ハ丸田伊豆と名切此作地鉄細く、白く漆し、黒い茶葉細く、銀多く、白漆し、本意大の孔地、中へより入るなり、成りいふ名が、花やうさ、大坂生及御座

薩列住三良

九ム子左ヤスリ

ウラ安永二癸巳八月

薩列住三良

薩列住三良

九ム子

薩列住三良

ウラ明和七庚寅八月

正良ハ正清ガ子正通ノ弟子伊地知平字と号す地鉄研小籠

多く白ゆしと耐の鑑治の中そハ海内の上者也正清不能似下

波平大和守平安国

九ム子スジカイヤスリ

安國ハ波平大和守平安国ノ四男ヨリテ家督セシト云ハナリ地鉄引張テ荒懸小籠自方テ地鉄引張年多シ上者也地鉄引張ノ名ト云

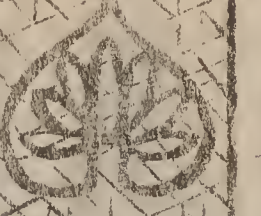
ム子ノスリ出シ園ノ如シ母方ノメンスコニスルナリ

一平安代

又長二尺二寸五分ノ 銘ノ如シ

主馬首一平安代

ウラ享保十二己巳年於薩易給黎郡作



主馬首一平安代

九〇子

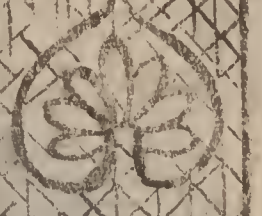


主馬首一平安代

大 版七切斷

寛延三辛巳十月五日

九〇子



主馬首藤原朝臣一平安代

ウラニ享保拾三年二月日

安代ハ大和守平安行々つゝ人彦州給黎郡喜入ノ位至小市郎後
 ハ一平と云銘初ハ一平安代後又主ノ有一平安代或は藤原朝臣と切
 〇有は作地鉄細き糸線小流多く白むて深し帽子大をよして
 流よて為るもの多し丸くもすゝゝハ縁也中心の光丸く鏡目の上
 蓋板や重宝あり〜として人彦州也享保五年正月と同一深流敷
 子於て御刀と銘お仍て葵一葉とハハ流小正清安代ハ东山美年
 の次本居起つた世に上り〜蓋板又すゝゝ重宝く一羊子のひもす
 大刀銘片平作リ

奥和泉守谷山波平忠重作

ウラニ享保拾三年二月日

奥和泉守忠重作

字平スリ 出雲ノ如シ小レ内ヤスリアラシ

奥和泉守忠重作

又長一尺九寸二分直五寸深一尺二寸

薩州住人

小肉アリ

小肉アリ

奥和泉守忠重作

忠重ハ薩摩國住人奥和泉守也初ハ有興ニ切及忠重ニ切庶幾諸
下又佐す國人奥と稱す地鉄細ニ疑自深ク正清安武正房以重重
位の上多也大カ銘又切物多シ銘ありて之也

一書又作ハ大内國一住て美譽ニ及享保五年六月二日奉と云

小肉アリ

波平安廣

寛保五年号アリ

波平安明

安廣ハ安正ノ子にて安正ノ嫡孫也安廣ハ安正ノ弟也安正ノ安廣ノ
弟也兄弟同位ノ作也地鉄強クカシ銘て下ノ地の中ヤ鉄銘アリ

上あり

波平安常

小肉アリ

安常ハ安國の子ヨリテ格ハ...
此ハ保赤親安常ノ子ハ...
安常ノ子安氏格ハ...
未詳アリ

伊勢守藤原清方

地金強ク出来カクシ

ウラニ薩列住

清方ハ安貞ノ子ヨリテ安代ノ孫也此作地鉄押ノ少シ軋モテ録書シ
公祖ヨハおと水代上ノ也

安永六丁酉八月日

刃者ニ足守ノカ

大ノタレ流多ク知先録ニテ
サケ録ニノ意アリ

薩陽士元平

小肉アリ

薩陽士元平

或ハ忠重孫ヨリテ安貞ノ子也

ヨモイ

安永五二月日

元平ハ其傳未シ詳アリ作ノ位正良又曰シ一平安代ノ作ニ似テ
終水ナル上オヤハ人籠ノ次トシテ白ハ要ニモハ當時海内ノ達人
来一國遠ク中利害ヲ説ク能クモハ根柢ノ要

薩洲平依之住に次作

ウラニ八月吉日

正次ハ新刀ニアリキ天正ノ初ニ治工トシテ世ホ多クシテモ如クモ
ニ區テ中氣文ヲテ極者知シタルヨリ多ク中心ノ長ハ寸ニ分ル
ハ少シ同列ニ五枚ニ尺ハ寸然モ上ニモ六枚ニ尺

國不知

「九ム子

彦五郎・壽命

壽命ハ國ノ壽家のノ一族ナリトシテ中ノ事ハ因テモ少ク
トモ其能ク有ク大氣ノ事也

「角ム子

高入道下扇

小肉行高入道ハ信高ノ隠録ナリ能ク似テ

播磨守藤原國清

和泉守盛經

一竿子忠綱ニヨク似タリ門人ナル歟

「ウラ 元禄十二年八月十日

大黒信重作

築紫信國ノ一家歟

藤原貞利

忠道作

小肉アリ

井上良忠

稻荷丸 魚道

角字大坂丹後守二代目カク切シ

丁子ミダレツヨシ

小肉アリ

模守藤原泰幸

刃長一尺七寸五分出来ツヨシ

小肉アリ

凶良

寛文延寶ノ作ナルシ

矢野將監忠宗造之

九

永重

○山本武藏守源勝吉

九公子

角筆 元禄以ノ人ナラズ

直又

○黒田山城守藤原信利

自又上ノ子ナラズ

○度守藤原貞道

角筆 細直又上ナラズ

○高橋國重

查又高田ノ如シ

九公子

○小陽内記清次

ウラ千秋万歳

清次小陽と仰ハ小陸七國の中ふるふし徳心とも其國不立於不
及ふ紀すは仰地鉄細ふくく勇あくる皇の末と免ゆる物之上也

小肉アリ

和泉守源國士口

國吉ハ大坂越治ふる河内守國由丁子小細ナリ上子也元禄以

角筆

魚住作

藤原和通

蘇集家より書す。之のち大坂御治あり

小録白書上より

心之六未手八乃

一七

越後守藤原助廣

越後守助廣ハ大坂御治より終ひたり城
汝ちと銘セし子も看しほり出しし汝の誠者を候
新刀辨疑卷之六終

